
ヤン・ウェンリー IN 大帝国

東雲 1 号?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヤン・ウェンリー IN 大帝国

【Nコード】

N3188T

【作者名】

東雲1号？

【あらすじ】

作者の妄想シリーズです。

あのヤン・ウェンリーがもし大帝国の世界にやってきたらどうなるのか？

そういう内容です。短編です。

壮大なストーリーも何もあります。

ぱつと見たらぱつと終わる内容です。大帝国のファンは見ないほうがいいかもしれません。

ぶっちゃけ、ヤン・ウェンリー最良の内容になるからです。

（前書き）

ヤン・ウェンリーがもし大帝国の世界にやってきたらという内容です
本当に彼を贖った内容になるので
ファンの方はみないほうがいいです
それでも良い方はどうぞ

分かりました・・・それでは本編が始まります

ህዝብ

ガメラ力軍が占領するマイクロネシア戦域に
ある一個艦隊がやってきた

日本帝国軍海軍所属 ヤン艦隊

戦艦ユリシーズの指揮官席の机の上に

一人の人間が胡坐をかいて戦争を開始しようとしていた。
不敗の名将 ヤン・ウェンリーである

彼は地球教徒に足を撃ち抜かれ殺される寸前に
何の因果かこの世界にやってきていた

人気の無い場所道端に転移してきたのだが

偶然通りがった通行人 東郷一家 に発見され・・・病院に担ぎ込
まれ、治療を受けた

そして身分証明証などからヤンの素性が発覚
事後承諾の形で、本人の了解を得ないまま強引に海軍に入隊させら
れ現在に至る

というか病院代払えと言われたら

しかもその治療費・・・東郷が立て替えました

そうだったら、流石のヤンでも引き受けざるを追えない

「金があったら嫌な思いをしなくても済むぞ」

父 ヤン・タイロンのお言葉が身にしみる

日本帝国軍は致命的に人手が足りないのだ

少し前に中帝国を滅ぼしたのも束の間

最近ではガメラ力から日本を舐め切った内容の条約書が送り続けられ

ていて

占拠した中帝国の領土を明け渡せだの
日本はガメリカの属国になれだの

そろそろ開戦しないと、この怒りは収まらない的な雰囲気だ
戦争したい

けど人手が足りない

そんな時に都合よくやってきました名将
帝とか東郷長官からの執拗な？事情説明を求められて出るわ出るわ
その輝かしい戦歴

オフランス王国に存在する鉄壁と称される防衛拠点、マジノライン
に匹敵するイゼルローン要塞を無血で攻略し

一個艦隊で3個艦隊を翻弄した話

原作ではシュタインメッツ レンネンキャンプ ワーレンの名だたる
名将の3個艦隊を各個撃破した話です

バーミリオン開戦の前哨戦でもある

俗にいう武勇伝の数々

「へえ・・・ヤンさんって凄いですねえ」

帝ちゃん、その戦歴に驚く

東郷長官に匹敵・・・もしくはそれ以上の戦歴なのだから・・・

「いやぁ・・・その私は自分の出来る事を最大限といいますか・・・」

「

「はっはっはっ、ヤン、お前は是非日本海軍に入るべきだ」

「東郷長官・・・私の話聞いてますか？」

「ヤン・・・神である私からも要請したい。みんなと一緒にこの日本を守ってくれないか？元に住る世界に帰る為の手段はこちらで調査することを約束しよう」

「あのお・・・確か貴方・・・神でしたよね？」

「紛れもなくそうだが」

「私はその・・・歴史の研究が・・・」

「ヤンさん・・・帝の勅命です。貴方には日本海軍に入ってもらいます。柴神様、彼の事を宜しくお願いしますね」

「任せよう」

「私の意図しないところで話が勝手に決まっていく・・・」

「はっはっはっ、大丈夫だ。ヤンの所には日本軍最新鋭の戦艦を配備させよう。というか病院代の治療費の関係で少し旧式が混ざっているが」

「そういう問題じゃないんですけど・・・」

そして海軍に入隊確定し

色んな人事をこなしていく

まあ日本軍

量より質を優先しているようだ

兵士の人格面でも特に悪いところなし

病院で治療中に中帝国は滅ぼされ

現在の大敵はガメラ・エイリス・オフランスの3国

自分の世界で言い表すなら

フェザーンが銀河帝国・自由惑星同盟を同時に相手するようなものだ
正直自分に出来るのだろうかと思いたくもなる
でもやるしかない

莫大な治療費を盾に取られた以上
やるしかない

自分には知略がある

かつて、最高の智将だと言われたじゃないか
そうやるしかない
自身を奮い立たせて

ヤンは・・・現実に挑む

因みに待遇は海軍大将です

自分の両翼は日本軍の2名の提督が固める

右翼を主に62式ミサイル・巡洋艦で構成される、柴神率いる第2艦隊

左翼は主に63式特雷型駆逐艦で構成される、田中雷蔵率いる第3艦隊

中央はもちろんヤン・ウェンリー率いる第1艦隊

主に60式主力戦艦・62式ミサイル戦艦・その他巡洋艦でバランス良く配備されている。

旗艦はユリシーズ

50式駆逐艦を緑色に塗装し、より推力・索敵能力を強化した戦艦旗艦だけ旧式なのは、東郷の軽い嫌がらせだろう

でも性能自体は、非常に高い

それをひつくるめて、日本軍ではヤン艦隊と言われる

「ガメリカ軍領土マイクロネシアに奇襲作戦を開始します」

ガメリカ軍に宣戦布告と同時に

東郷軍はマニラ2000

ヤン艦隊はマイクロネシアに奇襲作戦を開始した

「うん・・・まあ、気楽にやってくれ」

副官の言葉にヤンは気楽にこたえる

そしてマイクを持ち、全艦隊に愚痴をこぼし始める

「全員聞いてくれ。この戦いは正直下らない戦いだ。向こうから人を馬鹿にしたような、不平等条約を突き付けてくるような連中を相手にしなきゃいけない。私としては美味い子茶が飲みたいだけなの

だが、それをさせてくれない・・・正直不愉快だ」

「『『『『『そうだそうだッ!!』『』『』『』」

艦内から響く、彼と同じ怒りの声

「こちらで勝つ算段は用意してある。雷蔵」

ヤンは通信機をとり田中雷蔵に連絡を取る

『たく・・・何だよ』

「先陣は君に任せる。将来海軍長官になるなら、これ位は容易いと思わないかい？」

『へっ・・・言ってくれるぜ』

「この奇襲作戦は、迅速さにあるからね。日本軍の中でも屈指の機動力を持つ君になら可能だろう？」

『ちっ・・・そこまで言われたら、やるしかねえじゃねえか・・・分かったぜ・・・その代わり戦場から帰還したら・・・』

「もちろん、東郷長官に提出する報告書には、君の武勇欄に少々アイロはつけさせてもらうよ」

『約束だからな』

ブツ・・・

『ヤンよ・・・雷蔵を少し甘やかし過ぎではないか？』

柴神がその直後、通信に割り込んできた

「柴神様も盗み聞きとは、お人が悪い」

『すまない』

「大丈夫ですよ・・・イロと言つても、ホントの意味で少々ですか」

『彼は若い・・・まだ多くの事を学ばねばならないからな』

「事実ですね」

『ヤン・・・私はどうすればいい？』

「そうですねえ・・・雷蔵が引つ掻きまわした後の後始末をお願いします」

『そしてヤンは』

「私は後方の安全と2・3艦隊の中間点を維持します」

『すまんな・・・一番重要な所を』

「いいえ・・・2人の苦勞ほどでもないですよ」
『十分だ』

「ダンケ（ありがとう）」

『ドクツ語だな』

「いやぁ・・・ちよつとした遊び心ですよ」
そして戦争は開始される

ヤン艦隊は正にその不敗の名に恥じない戦いを開始した

ガメリ力軍は、正に何もできない状態だった

出撃しようにも先手先手を打たれ

何も出来ずに時を費やした

「あの糞ジャップ・・・こつちの手の内を読んでいるのかよッ！！」

マイクロネシアに駐在していた

キャシー・ブラッドレイは怒りを露わにしていた

「全艦隊ッ！！機動力を最大限に利用して近接戦だッ！！糞ジャップ共のカイワレペニスをポ キーのようにへし折ってやれッ！！」

「ハッ！！」

「ガメリカンパワーッ！！」

ヤン艦隊はその突撃に冷静だった

押し潰してくるようなそれは

他の提督なれば焦り、心折られ、逆に壊滅させられそうな
プレッシャーを感じたはずなのに・・・

最初は慌てふためていた連中も
どつしりと構えてる司令官の顔を見て

その場を持ち直した

「慌てなくていい。射程ではこちらに分があるからね。レーザーで
敵艦隊をしつかりと効率的に狙えば一気にせん滅できる・・・」全

艦隊全砲門オールクリア」・・・撃てえ」

レーザーがブラッドレイ艦隊に叩きつけられる

突撃の陣形の中心部分

つまりは、先端部分が艦の一斉砲撃により崩壊していく

そして内部の旗艦にまでそれが及び・・・

「全艦隊の7割強が壊滅しつつありッ！ブラッドレイ提督・・・

我が艦隊の敗北が・・・」「チックショオオオオオオッ！！」

ブラッドレイ旗艦の動力部にレーザーを受け破損し

戦いの後、捕獲艦に捕獲された

実質・・・マイクロネシア戦は

ヤン艦隊に与えた被害は皆無に等しかった

全くの無傷ではないが

ただ・・・マイクロネシア本星を占拠するために乗り込んだ、陸軍
が多少の被害をこうむる結果にはなったが・・・

同時刻・・・東郷軍からマニラ2000を占拠した報告が入る

日本軍は初戦でガメリカ軍に勝利するという輝かしい結果を収めた

この戦いでヤンは

日本軍で英雄扱いされることとなる

味方に損害らしい損害を出さず、敵には大損害を与える名将

民衆は彼を「ミラクルヤン」「神風の体現者」「生き神様」

と呼び、大いにたたえた

ミラクルヤンの異名には、ヤンは顔をしかめる

どこの世界でもこの仇名は健在なのだということに

偶然というべきか

マスメディアの感性が向こうと同じ価値観なのか

彼の頭脳を持っけてしてもわからない

そしてこの功績によりヤンの海軍による地位が見直され
一部の反対意見があったものの元帥に昇進させられた

一度の戦闘で異例の中の異例の昇進だが
神が掛ったような指揮能力

それが彼の昇進を決定づけるそれだった。

そしてこの初戦の勝利を新たな下地として

帝の勅命で行われた政策

全宇宙中を日本にしようとした子供じみた理想論である日本化計画
ドクツ軍との同盟などを繰り広げていき

常勝の東郷

不敗のヤン

の2枚看板で世界に挑んでいくことになる

全宇宙中の歴史がまた1ページ

ヤン・ウェンリー 大帝国風能力値

大帝国ファンの方々、色々すいません 完璧に作者の妄想です

年齢33歳

スキル 超戦術 もしくは「頭脳操艦」並みの鉄壁スキル 8
0%の確率でダメージ80%OFFというトンデモスキル

指揮値 540

特性1	全性能+100%
特性2	全性能+100%
特性3	全性能+100%
特性4	全性能+100%

プロフィール

何の因果かこちらの世界にやってきた不敗の名将

日本軍内最高の智将でその知略は東郷さえも凌駕する

温和な人格者だが、戦争を誰よりも嫌悪している

だが、こつちの世界にやってくる前に地球教徒に銃で

足を撃ち抜かれた際にかかった

莫大な病院の治療費を支払うために泣く泣く日本軍に参加

その後、日本軍でその手腕を振るい

「不敗の名将」「魔術師」「ミラクルヤン」「常勝の東郷・不敗のヤン」「現人神」「生き神」「神風の体現者」などなどの本人からすれば、有り難くもない異名を仰せつかっている。

実質彼の対抗できる提督は、全宇宙中に非常に数少ないと称され比類無き指揮官として他国に知れ渡っている

日本軍最強の用兵家なのでは？と言われている

ヤンに対する他の提督の評価

ドクツ軍元帥のエル・ロンメルの御意見

「彼は厄介な相手だよ。自分が戦場を操っているようで、実は全て向こうの手の内だったなんてこともありそうだよ・・・戦場の化か

し合いでこうも泣かされそうな気持ちになったのは・・・マンシュ
タインと模擬戦して以来だよ」

それに対しヤンのご意見

「こっちが予め用意しておいた手で、先手を切ろうにも限りがある、
相手はドクツ軍の名将だ。絶対に2番煎じは通用しないからね・・・
こっちの手が切れた時が自分の敗北の時だろうね」

ガメリカ軍太平洋艦隊司令 イーグル・ダグラスの御意見

「あいつは確か・・・ウェンリー・ヤンだったか？まあいい・・・
あの野郎はトウゴウと同じぐらい厄介だ・・・いや・・・それ以上
だろうな。あのテイルハッピー・・・失礼した・・・キャシー・ブ
ラッドレイ提督が文字通り手も足も出ずにやられるなんて、ガメリ
カ映画並みのご都合主義を想像したぜ。正直、あいつと戦ってみた
いが・・・もし万が一のことで大統領選に出馬するどこの騒ぎじゃ
なくなったら？・・・ん？すまない一人言だ・・・聞き流してくれ」

ヤンはイーグル・ダグラスをこう見る

「キャシー・ブラッドレイは・・・以前似たような敵と戦った時が
あってね・・・ん？まあビッテンフェルトという名前の提督だけど
・・・それに対処できたんだけどねえ・・・彼・・・イーグル・ダグ
ラスは、強敵だね。彼はどちらかといえば戦略家だ。もちろん優秀
な戦術家でもあるけどね。下地を固めて堅実に攻めてくる。智と勇
のバランスがよくとれている・・・まるでロイエンタール提督を彷彿
とさせるよ」

エイリス軍 騎士提督の1人、ヴィクトリー・ネルソンは、ヤンに
対しこう見る

「東洋の国にあれ程の逸材が眠っているとは、私の認識が甘かった
ようです。正直我々ロイヤルナイツの猛攻をあざ笑うかのような
知略・戦術は、腹立たしくありますね。だが我々ロイヤルナイツは
女王陛下をお守りする為の剣です。先ほどの無礼な言葉の数々は忘
れていただけると助かります」

ヤンはエイリス軍と騎士提督をこう見る

「うーん何というのかなあ・・・ここまで兵の質の良し悪しの激し
い国も中々無いね。私の勘だともう暫くしたら滅びる国家と見るね。
上流階級に居る人たちが、民衆を自分の欲望の為にだけに利用し、そ
れが長期化している国はね、滅亡にいたる大きな原因なんだ。そん
な国を必死になって守ろうとするロイヤルナイツは、最後の良心と
言ってもいいんじゃないかなあ・・・主君をよく守りよく戦う・・・
正に良将だね・・・」

人類統合組織ソビエトの名将 ジューザン・ジューコフは冷や汗を
かきながら、ヤンをこう見る

「純粹な脅威を覚える男だ・・・いくら肉の壁を敷こうが・・・只
敷くだけに終わるだけになりそうだ。こちらとて軍人、自分の身を
刺し違えても討ち取る覚悟はあるが・・・不安が残る結末になりそ

うだ・・・」

ヤンの評価

「純粹な武人だね。そして名将に足る器をもっている。剛毅で冷静沈着な指揮・・・私でもあそこまで非情に徹する事が出来るのだから・・・彼の過少評価をしたときに私の敗北は決まったも同然だ・・・ドライアイスの剣、あのオーベルシュタイン元帥を思い出すね・・・」

ドクツ軍総統 レーティア・アドルフがするヤンの評価

「ロンメルから聞いてはいるが、日本に凄い名将がいるみたいだな。今度デーニッツに詳しく聞いてみよう。どうなんだろうな？ロンメルとマンシュタインに聞いた情報では、1個艦隊同士で戦ったら、確実に敗北すると言ったんだ。そんな情けない事言った2人には、もちろん私が蹴って性根を叩き直してあげたけどな。しかしどうなんだろうな・・・気になるな。確か・・・常勝の東郷、不敗のヤンと言われているようだけど」

「ねえ、レーティア・・・今度のライブの衣装のことだけど」

「ゲッ！ゲッペルスだ・・・私は用事が出来て逃げなきゃいけないんだ。これはホントだぞ・・・」

ヤンがレーティアを評価する

「うん、間違いなく数世紀に1度現れるか現れないかの天才だね。歴史はだから面白いんだけどね・・・名君か・・・あのラインハルト陛下もそうだけど・・・彼と違う点を一つ上げれば、なんでも彼女1人だけで全てをこなしている点かな。1人の天才に支えられた

国家は、呆気なく瓦解する。これは歴史が証明しているからね。うん？彼女率いる艦隊と正面で戦ったらどうなるかって？そうなら、付け入る隙を見いだせないまま負けるかもしれないね。そうならない為に、彼女の体調不良を招くような状態に追い込むしかないね。もう一度言うけど、彼女は真正銘の天才だ。あのラインハルト・フォン・ローエングラムと並ぶといい。そんな彼女に正面から挑めって・・・冗談じゃないね・・・失礼私とした事が・・・言葉が過ぎたようだ。忘れて欲しい」

ヤンの東郷の評価

「うん・・・緻密な計算能力に裏打ちされた戦術をとるタイプだね。だからと言ってその部分を崩したからといっても、隙を見せない。何というのかなあ・・・奥の手を見せたようで、さらに奥の手を隠し持っている。でもそれが奥の手じゃなくて・・・その・・・うん・・・はつきり言える事は、彼は手強い・・・これは事実だね」

東郷がするヤンの評価

「はっはっはっ、あいつはよくやる男だと思うぞ。実力としては向こうが格上なのに何を謙虚になっているんだ。俺は、数多くの奥の手を隠し持っているように見えるがな、実際はそう見せているだけにすぎんさ。ヤンだって十分俺を恐怖させるだけの要素を隠し持っているぞ。あいつに唯一勝っているとすれば、女に関する事だけだ。それと俺に立て替えて貰った病院の治療費返せよ。結構な額なんだからな」

田中雷蔵がするヤンの評価

「あいつは、東郷と一緒に上から引きずり落としてやる。その為には努力しないといけねえな」
評価じゃないじゃん

ヤンの評価

「典型的なイノシシ武者だね。でも冷静な指揮官のもとで一番の破壊力を発揮するタイプだということにも気付いてほしいと言いたいね・・・だって彼・・・敵を見つけたら我先に突撃していくからね」

柴神がするヤンの評価

「うむ・・・優秀といって過言ではない男だな。實力もあるし彼なら様々な面で信用が置ける。私の人を見る目は少なくともそう言っている・・・しかし・・・あの男が時折する悲しい目は辛いものがあるな」

ヤンの評価

「最初は、専制主義に似た制度のこの国をみて自分の目を疑ったが、大丈夫そうだね。彼の独断で帝という最高権力者を選んでいるようだが、まあ彼なら問題はないと思う・・・何かの間違いが起きなきやね。そして、提督としての評価は、百戦錬磨としか言いようがないね。一艦隊の司令としても良し。分艦隊の司令としても指示以上の成果を上げてくれる。文句はないよ」

東郷の生真面目参謀 秋山のヤンの評価

「正直に言えば・・・東郷長官より・・・彼の方の参謀になりたいと思う時があります。だって、向こうは働いたら働いた分だけの評価してくれそうだし・・・東郷長官のお守もいろいろ大変なんですよ。全年齢対象じゃ全部は言えないんですけど・・・毎晩毎晩女性と遊ぶ彼を色々と気遣いつつ、各方面の調整をしなきゃいけない身分なんですからね・・・でもヤンさんの参謀になったら・・・はあ・・・やっぱり東郷長官のことが気になります・・・もっと早い段階でヤンさんと出会っていればよかった・・・心の底からそう思います」

「はっはっはっ、秋山、お前がそうしたいならそうすればいい。代わりの副官は別の娘を・・・」

「あなたのそういうところが見逃せないんですよ・・・私がいなくなったら、好き勝手やり始めますからね。ツツ・・・また胃痛が・・・」

秋山はガメリ力産の胃薬を飲み胃の痛みを抑えた。

ヤンの評価は

「有能な司令官には有能が参謀がいる。理想の組み合わせだね。だけれどね・・・東郷長官は、もう少し彼のことを労ってあげたほうがいいような気がするなあ。でもそうだと、東郷長官一体どうしたんですか？と言いだして、胃を痛めだすだろうね。文武両道で実直な参謀・・・もったいないような、そうじゃないような・・・まあとにかく、頭が禿げないように祈ろう」

ここから先はありません
というか・・・大帝国キャラ多すぎます。

（後書き）

「しかし、また作者は懲りずに書いてしまったと
また書きました

というか、あのバージョンパッチ

汎用提督のあれで？ピキーンと閃いたんですよ

「結構、色々改良されているもんな」

おかげで、嵌まりました

「個人の感想です」

あの・・・まあそうだけどさ

その・・・作者のやる気を削ぐというのは止めてほしいんですけど
「そういうことより俺の夢を聞いてほしいんだよ」

なんです

「俺の妄想を一瞬で文書化する機械をだな・・・」

あの・・・ヤン・ウエンリー関係の小説を書くたびに
そのネタをするんですか？

「ん？まだ彼を取り上げるような小説でも書くのか？」
機会があれば

「出たよ。半端野郎の返事。飲み会でも行けたらいくと言って来ない奴を思いたすな」

そうですか・・・

「この後書きまた長くなる予定か？」

この小説から読み始めた読者に分かるネタをやりましょうよ

「特にないだろ」

あるでしょうよ

「ぶつちやけ、読むに値しないグダグダトークしかないだろう」

ぶつちやけそうですね

「作者の面白話をここで聞きたいな」

いきなり会話を振ります？

ここで

無いですね

「オイオイ・・・これじゃ新規のファンなんて開拓できないぞ」

それよりも・・・作者の悩み聞いてください

「何だ？お金関係は聞かんぞ」

作者のエロゲ事情ですよ

「18禁ゲームは大人になってからしましょう」

注意書きありがとう

「どうも。で？何よ」

エロゲってさ・・・普通のゲームショップじゃ買えませんよね？

売ってはいるんですけど

「恥ずかしんだろ。作者どう見たってオタク以外の何物でもないし」

そういう話は置いといて

「やっぱり、通販が最良の選択になって・・・言いたいんだろう？」

アマゾンとかですね

送料タダだし

「もう少しエロゲが開かれた文化になってほしいのか？」

エロゲする立場からすれば願ってもない文化ですね

「うん・・・なら神に祈れ。作者の心の声は美人のオタクには優し

いが、それ以外は死ねと思っているからな」

それ全世界方々に失礼じゃないですか

「あん！？世の中は見た目9割なんだよ」

シビアなご意見ですね

「作者のプレイする美少女ゲームのように世の中優しくないの」

厳しいですね

「作者・・・現実を見据えて生きる・・・まずは、エロゲをオタク

街以外で買えるようになれ」

ダメ・・・心が折れそう

「あきらめたら、そこで試合終了だぜ」

使い方・・・違う気がします

「気にするな」
気にしますよ

それでは別の作品でお会いしましょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3188t/>

ヤン・ウェンリー IN 大帝国

2011年5月16日21時07分発行